

2017年8月18日(金)  
E.FORUMシンポジウム  
「グローバル化時代の市民育成」

## 国際交流・留学と市民育成

京都大学大学院教育学研究科  
教授 南部 広孝

1

## 内 容

1. 近代国家の成立と特徴
2. グローバル化の進展
3. 学校：「国民」育成の制度
4. 国際交流・留学の効用

2

## 1. 近代国家の成立と特徴

1. 近代国家の成立と特徴
2. グローバル化の進展
3. 学校：「国民」育成の制度
4. 国際交流・留学の効用

3

### 1-1. 近代国家の成立

- 多様な形態の国家から**国民国家**へ

「国民」や「民族」の名によって正当化される国家

- 19世紀初頭までにはイギリス、アメリカ、フランスで成立

(佐藤成基『国家の社会学』青弓社、2014年、231～233頁)

4

### 1-2. 「国民国家」の特徴

#### ➢ 国民国家

固有の領土と国民をもち、相互に排他的な主権をもつ。中央政府、議会、憲法、軍隊、警察、学校制度を備え、経済政策や福祉政策をおこない、公式統計を公表する。

国民国家はどれも独自の歴史と文化を標榜する。…しかし、国家がそのように「ナショナル」な独自性を主張するというナショナリズムの原理自体が、グローバルに標準化されたものである。

(佐藤成基『国家の社会学』青弓社、2014年、237～238頁)

5

### 1-3. 「国民国家」の伝播

- 19世紀中に中南米とヨーロッパ各地に拡大
- 20世紀にはアジア、アフリカにも拡大

#### ➢ 国民国家の普及

国内的な社会の変化とは無関係に、しばしばそれに先行して国を超えた文化伝播のプロセスがあり、その結果西欧的な国民国家が世界のどこでも共通に模倣可能なモデルとして広まっていく。

(佐藤成基『国家の社会学』青弓社、2014年、233、236頁)

6

### 1-3. 「国民国家」の伝播 (続)

#### > 国民国家モデルの受容の変化

第1次世界大戦以後、国民国家モデル…は軍事的・経済的な優越性や道義的優越性ゆえに進んで模倣される対象から、模倣すべき対象へと変わっていった。…新たに独立する国家は…「国民国家」であることによってはじめて、国際的な承認を受け、国際機関に加盟することも可能になる。

(佐藤成基『国家の社会学』青弓社、2014年、239～240頁)

7

### 1-3. 「国民国家」の伝播 (続)

#### > 国民国家の理念としての「民族自決」

民族自決：「民族（ネーション）」は自分たち自身で統治していかなければならない

↓  
「異民族支配」はいかなる理由であれ許されない  
すべての民族は独立して、自分たち自身の国家をもたなければならない

(佐藤成基『国家の社会学』青弓社、2014年、239～240頁)

**国民：独自の歴史や文化を共有する（一つの）「民族（ネーション）」**

8

## 2. グローバル化の進展

1. 近代国家の成立と特徴
2. グローバル化の進展
3. 学校：「国民」育成の制度
4. 国際交流・留学の効用

9

### 2-1. グローバル化とは

#### > グローバル化とは、

ヒト・モノ・カネ、それから情報や技術が国境を越えて広がったり、交通や情報技術の発展とともに様々な活動が国境を越えて拡大・深化したりする過程

(伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』平凡社、2002年、43～44頁)

10

### 2-2. グローバル化過程の諸側面

#### > 経済領域

- ・ 多国籍企業の増加や生産の国際分業の進展
- ・ 経済に関するしくみの統合、共通化  
所有権や契約の考え方、雇用制度、労働条件、情報開示や統計の整備、など
- ・ 金融の国を越えた結びつき
- ・ 経済の安定をめざす国際的調整メカニズムの整備

(南部広孝「教育改革の国際比較」江原武一・南部広孝編『現代教育改革論—世界の動向と日本のゆくえ』(財)放送大学教育振興会、2011年、10～11頁)

11

### 2-2. グローバル化過程の諸側面 (続)

#### > 政治領域

- ・ 国際的なネットワークを意識した政治決定  
国内の事項を決定する際でもグローバルな潮流や方向性をふまえる必要性
- ・ NGOや市民グループなどが国を越えて連携
- ・ ある国で提唱された政治的な考え方が国を越えて普及  
「小さな政府」、規制緩和、標準化など

(南部広孝「教育改革の国際比較」江原武一・南部広孝編『現代教育改革論—世界の動向と日本のゆくえ』(財)放送大学教育振興会、2011年、11頁)

12

## 2-2. グローバル化過程の諸側面 (続)

### > 社会領域

- ・ ある特定の商品の国際的な流通に伴う価値観の共通化
- ・ 情報の即時的な流通
- ・ 英語の国際言語としての地位向上

(南部広孝「教育改革の国際比較」江原武一・南部広孝編『現代教育改革論－世界の動向と日本のゆくえ』(財)放送大学教育振興会、2011年、11～12頁)

- ・ 人の移動の活発化
- ・ 国内における価値観の多様化

13

## 2-3. グローバル化の影響

### > 共通化(統一化)傾向

- ・ グローバルなネットワークへの参加に伴う標準化(グローバル・スタンダード)
- ・ **国家(国民国家)の枠組みの揺らぎ**

### > 差異強調傾向

- ・ 世界における自らの存在感や国際競争力を高めるための、固有性・独自性の強調
- ・ **国家意識(アイデンティティ)の強化**

14

## 3. 学校: 「国民」育成の制度

1. 近代国家の成立と特徴
2. グローバル化の進展
3. 学校: 「国民」育成の制度
4. 国際交流・留学の効用

15

### 3-1. 近代学校制度

- > 国民国家を構成する諸制度に組み込まれることによって、学校は「国民」を育成する制度として整備され、機能するようになる
- > 近代的な国家や社会を形成するのに必要な知識、国民として共有すべき価値を伝えることが目標。国民国家が「民族自決」原則を基礎とすることで、共有すべき価値の一部に民族的アイデンティティが含まれる

16

### 3-2. 日本国憲法

#### > 前文

(前略) そもそも国政は、**国民**の厳粛な信託によるものであつて、その権威は**国民**に由来し、その権力は**国民**の代表者がこれを行使し、その福利は**国民**がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。(後略)

#### > 第26条

すべて**国民**は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

17

### 3-3. 教育基本法 (現行)

#### > 第1条 (教育の目的)

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な**国民の育成を期して**行われなければならない。

#### > 第4条 (教育の機会均等)

すべて**国民**は、ひとしく、その能力に応じた教育を受ける機会を与えられなければならない。人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されない。

18

### 3-4. グローバル化する社会と学校

- グローバル化の進展に伴って、「国民」の一体性には揺らぎが生じる。しかし、学校が「国民」育成の装置であることは（すぐには）変化しない



育成すべき「国民」像の見直し → 市民？

- 同時に「国民」意識のいっそうの強調も生じる

19

### 3-5. 教育を通じて育てる人物像

- 「これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力」

- ・主体的に課題を発見し、解決に導く力、志、リーダーシップ
- ・創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感
- ・感性、思いやり、コミュニケーション能力、多様性を受容する力

いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ合意形成・課題解決する能力

（教育再生実行会議「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について（第七次提言）」、2015年5月14日）

20

### 3-5. 教育を通じて育てる人物像（続）

- 「学校教育を通じて子供たちに育てたい姿」

- ・社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。
- ・対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるときに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。
- ・変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

（中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」、2016年12月21日）

21

## 4. 国際交流・留学の効用

1. 近代国家の成立と特徴
2. グローバル化の進展
3. 学校：「国民」育成の制度
4. 国際交流・留学の効用

22

### 4-1. グローバル人材

- グローバル人材育成推進会議

「グローバル人材」概念の3要素

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

（グローバル人材育成推進会議「グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）」、2012年6月4日）

23

### 4-1. グローバル人材（続）

- 第2期教育振興基本計画

グローバル社会の中で特に求められる力

その上で、グローバル化が進行する社会においては、多様な人と関わり様々な経験を積み重ねるなど「社会を生き抜く力」を身に付ける過程の中で、未来への飛躍を担うための創造性やチャレンジ精神、強い意志を持って迅速に決断し組織を統率するリーダーシップ、国境を越えて人々と協働するための英語等の語学力・コミュニケーション能力、異文化に対する理解、日本人としてのアイデンティティなどを培っていく視点も今般一層重要になっているものと考えられる。

（「教育振興基本計画」、2013年6月14日閣議決定）

24

## 4-2. 国際的な視野を持つ必要性

### ➤ 「学校教育を通じて子供たちに育てたい姿」(再)

- ・対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」、2016年12月21日)

### ➤ 「他者」の拡大、異文化理解の重要性強調 ← グローバル化の進展

25

## 4-3. 国際交流・留学の促進

### ➤ トビタテ！ 留学JAPAN

(2013年10月から始まった留学促進キャンペーン)

- ・「先進国である日本は、それらの課題(地球規模課題一発表者注)に積極的に取り組むことが求められており、そのためには、異文化を理解・尊重するグローバル意識を持つ人材が必要です。加えて、経済活動の変化と広がりに対応する上では、既存概念にとらわれない、チャレンジ精神も必要です。そうした人材を育てるための一つの有効な手段が、海外留学です。」

(「文部科学大臣挨拶」<http://www.tobitate.mext.go.jp/about/index.html>、2017年8月14日最終確認)

26

## 4-4. 国際交流・留学を考える

### ➤ 国際交流・留学の目的

- ・海外の社会や文化に関する知識の獲得  
→現在は、海外の情報がさまざまなメディアを通じて簡単に入手できる
- ・異文化の理解、国際理解  
→国際的な人の移動が増加することで、多様な文化を背景に持つ人びとが国内にも多数存在する
- ・外国語能力の向上

27

## 4-4. 国際交流・留学を考える(続)

### ➤ 国際交流・留学の形式

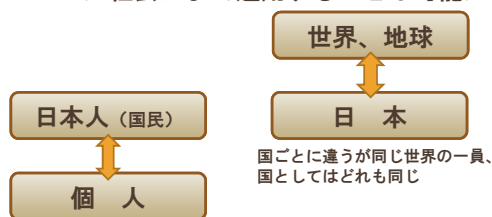
- ・集団活動か、個人活動か
- ・組織的な活動を中心にするか、自由な活動を中心にするか
- ・当該社会にどの程度関わるか

28

## 4-4. 国際交流・留学を考える(続)

### ➤ 国際交流・留学における「他者理解」

- ・一社会の中での「自己」と「他者」の関係を、グローバル社会にまで適用することは可能か

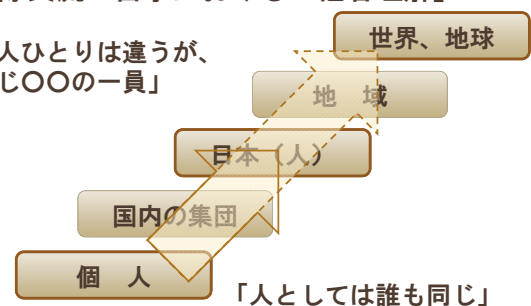


29

## 4-4. 国際交流・留学を考える(続)

### ➤ 国際交流・留学における「他者理解」

「一人ひとりとは違うが、同じ〇〇の一員」



30